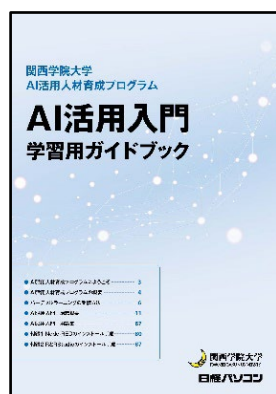


関西学院大学「AI 活用人材育成プログラム」バーチャルラーニング科目

「AI 活用入門」学習用ガイドブック



日経パソコン編 <B5判、約100ページ>

●概要

入門科目「AI 活用入門」の学習を支援するガイドブックです。各章の学習ポイントや進捗を確認することができます。オンラインで利用できる各種機能の説明、講座で使用する「Node-RED」「Rstudio」といったツールの導入手順、講義の理解を助ける重要キーワード解説（用語集）など、学習に役立つコンテンツを収録しています。

●目次

- ・「AI 活用人材育成プログラム」の概要
- ・「AI 活用入門」各講義のテーマ／ポイント
- ・ツールの導入手順
- ・重要キーワード解説（用語集）

●購入方法

(i) 個人購入の場合、各 URL よりお申込みください

一般：<https://kwanseigakuin-ai-biz.learning-ware.jp/sales/apply/top?id=1622>

同窓会：<https://kwanseigakuin-ai-biz.learning-ware.jp/sales/apply/top?id=1660>

後援会：<https://kwanseigakuin-ai-biz.learning-ware.jp/sales/apply/top?id=1661>

(ii) 法人購入の場合、下記 URL よりお問い合わせください。

<https://www.kg-vlearning.jp/contact>

●紙面イメージ

※内容変更等、実際の紙面とは異なる可能性がある旨、ご了承ください。

<講義概要>

第1回

講義ガイダンス

1-O-1.講義概要(時間目安:4分)

ゴール 講義の目的と目標、受講方法を理解する。AIの活用事例などに触れ、意欲的に学習できるようになる。


1-1 AIの発展と現在

1-1-1.AIとは何か

AIの定義

本講義では、AIを、「人間の記憶や考える仕掛けを人工的にシミュレートし、データや現象を学習することにより、推論・予測するための仕掛け、またはその仕掛けを使った自然言語処理や音声認識などの、人間が持つ基本的機能の実現」と定義する。

AI = Artificial Intelligence(人工知能)
= 人間の記憶や考える仕掛けを人工的にシミュレートし、データや現象を学習することにより、推論・予測するための仕掛け、またはその仕掛けを使った自然言語処理や音声認識などの、人間が持つ基本的機能の実現



人間は、記憶などとともに、目で見た/耳にしたものを、脳で処理し、口で話したものを考え、発音している

AIは、データや現象を学習し、推論・予測し、音声認識、自然言語(人間が話す言葉)を処理する

AIの定義

本講義では、AIを、「人間の記憶や考える仕掛けを人工的にシミュレートし、データや現象を学習することにより、推論・予測するための仕掛け、またはその仕掛けを使った自然言語処理や音声認識などの、人間が持つ基本的機能の実現」と定義する。

AIの脅威と有用性

2014年に発表された論文で、約20年後までに約47%の仕事がAI等により自動化されるリスクが高いと予測され、脅威が訴えられた。一方で、人間が行うことを、客観的に、幅広い視野から支援するものとして大きな期待が寄せられている。

(時間目安:9分) 受講 月 日

<用語集>

用語集

講義で登場する主要なキーワードを、アルファベット順、五十音順で掲載。末尾のかっこ内は講義で登場する主要な単元の番号。

数字、A~Z

AI

エーアイ: artificial intelligence

人工的に作られた人間のような知能。人工知能と訳す。現在は、機械が自ら学習し、人間を超える高度な判断を可能にする機械学習が主流。人間の記憶や考える仕掛けを人工的にシミュレートし、データや現象を学習することにより、推論・予測する。(1-1-1)

AIアシスタント

エーアイアシスタント

利用者からの問い合わせや命令に対して、音声で受け答える機能。音声を認識して解析した後、内容に応じた処理や検索を実行して、結果を音声や画面で伝える。音声アシスタントとも呼ぶ。(1-1-1)

AI活用人材

API

エーピーアイ: application programming interface

アプリケーションとプログラムをつなぐものであり、プログラム(機能)を共有する仕組みを指す。大手ITベンダーをはじめとしたさまざまな企業が、クラウド上で、AI機能とそのAPIを提供している。ユーザーは、クラウドやWeb上にある機能を、APIを通して組合せて、アプリを開発できる。(5-1-1)

Blockly

ブロックリー

Googleが提供するビジュアルプログラミングの学習環境。現在、開発が進められている「Scratch3.0」のベースになっている。Scratchと同じユーザーインターフェースなので操作しやすい。JS、Python、PHP、Luaなどの言語にリアルタイムでコード変換することができる。(7-1-1)